

令和5年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(にかほ市)

1 市の概要(人口22,863人)※令和5年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和5年4月1日現在)

幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
0 園	0 園	4 園	4 か所	0 園	0 園	4 校

その他:なし

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題

- (1) 各園の特色・特徴を把握し、行政との信頼関係を密にしながら保育の質の向上に繋げる支援体制を構築する。
- (2) 教育・保育アドバイザーの支援のもと、保育者が抱える課題等の改善を図り、意欲の向上に繋げる。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目 的(3年間)

- (1) 就学前教育が及ぼす認知能力・非認知能力の育成を認識し、行政、保育者、保護者、教育者が連携し、親の経済状況による教育を受ける機会の格差が生じない環境の構築を図る。
- (2) 「子ども・子育てに寄り添うまち」として各保育施設、教育施設を核とした、地域全体での子育て支援体制の充実を図る。
- (3) 幼児教育保育の質の向上を図るため、連携協定先の高等教育機関等の助言を受けながら、各保育園・認定こども園の特色を生かした保育の実現を進め、地域への愛着が高い子どもを育てる。

主な内容

- 1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実
 - ・教育・保育アドバイザーを子育て支援課に配置
 - ・教育・保育アドバイザーを活用した事業の周知
 - ・教育委員会との連携強化のための情報交換
- (2) 教育・保育アドバイザーによる市内保育所・認定こども園の訪問
 - ・園内の職員間での円滑な情報共有について
 - ・保育者と保護者との関わりについて
 - ・職場のコミュニケーション、人間関係について
 - ・対応が難しい子どもとその親との関わりについて
 - ・障害児とその親との関り、指導について
 - ・虐待等の早期発見、防止に繋がる情報共有について
- (3) 専門性向上のための研修、研究支援
 - ・体制活用のための人材育成方針の作成・活用
 - ・各園の連携を深めるとともに保育レベルの共通化を図り、園内リーダー育成のための情報交換会を実施
 - ・保育の資質向上のための研修会等について、現状を分析しスキルアップの機会を創出する
- (4) 幼小接続の推進など、体制の活用
 - ・教育委員会、教育専門家、市が連携協定を締結した大学等高等専門機関の教授ら研究者と保育所による幼児教育の効果を実践する研究会の開催と検証

・教育委員会部局との情報共有を密にし、市で進める幼少連携の強化を図る
(5) 県と市の連携を含めた域内全体の質向上を図るための仕組みづくり
・県との連携を強化し、事業の円滑な実施のための助言、指導法等の共通理解 ・就学前教育推進協議会、アドバイザー連絡協議会等を通じて、先行する地域の事例等を参考に、取り組み等への助言、指導等を活用

年度別重点

令和4年度	園との連携体制をさらに深化させ、各園の課題やニーズの把握に努め支援を行う。幼保小接続の推進に向けた連携体制の構築と強化。
令和5年度	教育部局と円滑な情報共有を図るために連携体制の強化と円滑な接続に向けた合同研修会の実施。
令和6年度	

4 令和5年度の具体

目 的

1. 教育・保育アドバイザーが各園を定期的に訪問し、各園の取り組みや課題の把握に努め、課題解決のための支援を行う。
2. 行政と園が連携して教育・保育の質の向上に資する取り組みを行う。（研修等）
3. 小学校就学に向けた連携体制の強化に努める。

実施内容及び実施状況(中間)

(1)「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」

- ・子育て支援課と小学校教育部局（学校教育課）の連携を強化し、円滑な幼保小連携のための情報共有を図る（随時）
- ・小学校の訪問、情報共有により就学までに身に付けるべき資質・能力の向上について検証する（各校を年2回訪問）

○幼保小連絡協議会へ参加し、各小学校と情報共有を図り、小学校との連携強化が図れた。

- 幼保小連絡協議会では児童の情報共有が中心であったが、今後、円滑な接続に向けた子どもの育ちと学びについても協議を行っていききたい。

(2)「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」

- ・子育て支援課に教育保育アドバイザー1名を継続配置
- ・教育・保育アドバイザーが定期的に保育所・認定こども園を巡回訪問し、各園の実情を把握し、適切な助言を行う（8施設：72回訪問）
- ・子ども家庭総合支援拠点、ネウボラ（母子保健支援班）、障害児集団訓練事業等との情報共有を図り、支援が必要な子どもとその親に対して適切な支援を行う

○教育・保育アドバイザーへ助言を求めるなど、アドバイザーの役割が浸透してきている。

園内研修の指導・助言により、保育の考え方について先生たちの意識に変化が見え始めている。

- 園と規模と体制により教育・保育アドバイザーの活用機会に差があるため、引き続き各園の環境やニーズ把握に努めながら、アドバイザーを通じた支援を継続していく。

◇令和5年度アドバイザーによる巡回訪問・指導に関する具体的な目標（にかほ市）

派遣実績	計	8施設／全	8施設149回
------	---	-------	---------

回数	・保育園：私立4園（36回） ・幼保連携型認定こども園：私立4園（36回）	
訪問内容	・園内研修支援（保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画） 8園（43回） ・公開保育支援（指導・助言、公開保育研究会の運営・準備） 園（回） ・個別相談（保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等） 8園（16回） ・状況把握（保育の状況観察、園長等への聞き取り調査） 8園（8回） ・周知活動（広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明） 8園（8回） - 施設（回） - 校（回） ・県と同行（指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化） 2園（2回） ・幼小接続（幼小接続に関する調査及び事業等） 校（回） - 園（回）	
理由	・各園を定期的に訪問することで各園の実情や課題等を把握し、課題解決に向けた支援を行い、保育の質の向上を図る。 ・家庭児童相談室、子ども家庭総合支援拠点等と情報共有を密にし、対応が難しい子どもとその保護者への関わり方について連携しながら支援を行う。	

（３）「専門性の向上のための研修の充実」

- ・各園の連携を深めるとともに保育レベルの共通化を図り、園内リーダー育成のための情報交換会を実施。（年2回）
- ・保育の資質向上のための研修会等について、現状を分析しスキルアップの機会を創出する。（年2回）

①乳幼児の保育の見方、育ちの読み取りについて学ぶ「年齢別研修会（0歳児）」を開催。

開催日：令和5年6月8日(木)

場 所：仁賀保公民館 ミーティングルーム

講 師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

〃

教育・保育アドバイザー 山上 真智子 氏

参加者：就学前教育・保育職員 8名

※キャリアアップ研修として開催

【参加者アンケート抜粋】

- ・子どもの姿から学びや経験していること、育っていること等の内面を理解することが重要だと学んだ
- ・日々の保育をその日限りで過ごすのではなく、ねらいを持ちその子の気持ちや小さな変化に気付ける視点をもって保育をしていくことが大切だと思った。



あ（写真左：講義、写真右：演習による実践）

② 1・2歳児の保育の見方、育ちの読み取りについて学ぶ「年齢別研修会（1・2歳児）」を開催。

開催日：令和5年6月29日(木)

場 所：仁賀保公民館 ミーティングルーム

講 師：秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部 真理 氏

〃

教育・保育アドバイザー 山上 真智子 氏

参加者：就学前教育・保育職員 10名

※キャリアアップ研修として開催。

【参加者アンケート抜粋】

- ・子どもの内面理解や日々の指導計画は、保育を見る「see」から始まることを念頭に置き、子どもしていること、その中に隠れている経験や学びを自分なりの言葉で記録していくことから始め、計画立案や実践に繋げていきたいと思った。
- ・「名前のつかない遊びを受け流さない」この中で子どもたちなりに無自覚に様々なことを学んでいると改めて理解できた。



(写真左：講義、写真右：演習による実践)

③ 3歳児以上児の保育の見方、育ちの読み取りについて学ぶ「年齢別研修会（3歳児以上児）」を開催。

開催日：令和5年7月26日(水)

場 所：仁賀保公民館 ミーティングルーム

講 師：秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 高橋 亜希子 氏

〃

教育・保育アドバイザー 山上 真智子 氏

参加者：就学前教育・保育職員 9名

※キャリアアップ研修として開催。

【参加者アンケート抜粋】

- ・子どもの表面とは裏腹な気持ちに気付いてあげるのが大切で、子どもの様子、心の動き、育ちや学びから何が必要かを考えた環境構成や関わりしていくことを大切にしたい。
- ・子どもの思いを受け止め、言語化することや共感し励ますこと、子どもの成長と一緒に喜んで

いくことが大切だと学ぶことができた。



(写真左：講義、写真右：演習による実践)

- 保育者の意識の変化に繋がり、保育の見直しのきっかけとなった。
- 演習では活発な意見交換が行われ、園同士の交流が図られた。

(4)「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・教育委員会部局との連携を強化し、就学前教育・保育と小学校の円滑な接続を推進する
- ・小学校との円滑な接続に向けた合同研修会の開催（年1回）

○接続期の子どもの育ちを共有し、相互理解を深める「幼保小合同研修会」を開催。

開催日：令和5年8月8日(火)

場 所：仁賀保公民館講堂

講 師：秋田県教育庁幼保推進課 チームリーダー 井上 英樹 氏

〃 教育・保育アドバイザー 山上 真智子 氏

参加者：就学前教育・保育職員 10名、小学校教諭 7名

【参加者アンケート抜粋】

- ・幼保小が繋がることで、子どもの資質・能力も繋がっていくことを実感した。
- ・幼保でやってくださることをとてもありがたく感じた。このような学びが小学校の学習を支えてくれているのだと改めて思った。
- ・幼保小が連携し一人一人の子どもが安心して就学できるような環境をつくっていくことの大切さを再認識した。



(写真左：講義)

- 「幼保小合同研修会」の実施を通じて、相互理解を深めることができた。
- 情報交換の時間を設け、自由に話す機会を設けたことで、連携を深めることができた。
- 教育委員会の指導主事に参加してもらったことで、幼保小接続の重要性の認識の共有を図ることができた。
- 参加した先生の相互理解を深めることができたが、組織全体に浸透させることが今後の課題。今後は、校長先生等管理職の参加を促したい。

（５）「県との連携体制の充実」

- ・ 県との連携を強化し、事業の円滑な実施のための助言、指導法等の共通理解を図る（要請訪問による指導年２回・市の計画相談年２回）
- ・ 県就学前教育推進協議会（年１回）、アドバイザー連絡協議会（年５回）等を通じて、先行する地域の事例等を参考に、取り組み等への助言、指導等を活用
- ・ 県アドバイザーによる支援訪問に市アドバイザーが同行支援（１園１回）
- ・ 県主催「市アドバイザーに学ぶ研修会」にアドバイザーを派遣（開催地：横手市、能代市）
- ・ 県幼保推進課所管研修会にアドバイザーを派遣（「園内研修リーダー養成講座Ⅰ」「保育実践力習得研修」「園内研修リーダー養成講座Ⅱ」）

○資質向上のための研修の実施にあたり、助言・指導を受けながら、充実した内容の研修を実施することができた。

○アドバイザーに学ぶ研修会では、他市のアドバイザーの関わり方を見たり、意見交換を行ったことで、業務の進め方の参考になった。

○アドバイザー連絡協議において、他市の取り組み事例が参考になった。

●業務の進め方について、各種協議会等で他市のアドバイザーと交流から参考となる事例を学ぶ必要がある。

５ わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業(令和5年)の成果と課題

○研修の実施により、保育士の保育に対する意識の醸成が図られた。

○令和５年度は、幼保小の円滑な接続の推進を重点的に取り組んだ。各小学校との幼保小連絡協議会へのアドバイザーの参加や昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響で実施できなかった「幼保小合同研修会」を開催した。特に幼保小合同研修会については、初めての試みではあったが、参加率も高く、相互理解を深めることを目的に開催した。アンケート等からも同じ子どもの姿でも読み取り方が園側と学校側では違うこと、円滑な接続のためにはその読み取りについて共有していくことが大切である等、相互理解を深めることができた。

●継続して円滑な接続を進めるにあたり、相互理解を組織全体に浸透させていくことが課題と思われる、校長等管理職の先生方に研修の参加を促し、理解を深めていきたい。